



# 生きて行く私



fumiacy

最近本屋に行くと、実に多くの自己啓発書を見かける。どれも幸せ、成功、お金持ちといった言葉が題名につけられ、我が物顔で本棚に鎮座している。人の欲を駆り立てる題名が消費者の心をくすぐるのか、情報が氾濫する現代の傾向なのか分からないが、まるで折り紙の折り方や家電の操作方法を説明するような無機質な文章は、どれも尤もらしいことが書かれてあるのだが、全く心に響かない。だからか、私も友人に勧められて昔数冊読んだことがあるが、ほとんど内容を覚えていない。そもそも人の生き方をビジネス書のごとく説くのが誤りだと感じるし、何の目的もなく漠然と幸せになりたいと思っている人が自己啓発本を読んだところで頭でっかちになるばかりで、時間の無駄であるとさえ思うのである。それならば、自伝や伝記を読んだほうがよっぽどためになるし、心が揺さぶられるのではないだろうか。

そういう意味で、力強い女としての生き方を何ら誇張することなく、実直に作者独自の視点で綴ったこの宇野千代の自叙伝は、読後感が強く残る一冊だ。特に自伝と言うと、スポーツマンや企業経営者など男性の著者が多い中で、明治から平成までを颯爽と生き抜いた女流作家の視線は新鮮で、随所で大声を上げて笑ってしまうほど面白い。読後の率直な感想は、随分強くて美しい女だなあという感嘆である。好奇心が強く、これだと思ったら立ち止まらずに、直ぐに物凄い勢いで行動に移す。何をするにも限度を決めず、自分の信念を最後まで貫く。この自分の気持ちにとことん正直であり続ける姿勢は、仕事だけではなく彼女の私生活においても強く反映されている。例えば、様々な男性との恋の遍歴然り、生涯に十三軒もの家を建てたこと然り、食へのこだわり然りである。

しかし、彼女のがむしゃらさは、ただ形振り構わず半狂乱になって突っ走るということでは決してない。薄墨の桜の話を知った際に、まず村役場に電話をして宿をとり、いざ見に行き資料を取り寄せ、桜の再生を実現していったように、常によく現状を把握した上で、賢くあつという間にぱっぱと何でも気持ちよくやり遂げてしまうのだ。まるで映画のヒロインのように。しかも、鴉が空を翔ぶように自然であるからこそ、彼女の潔さが私の心に直に伝わってくるのだ。読んでいる途中、私は幾度となく清々しく晴れ晴れした気持ちになれた。

そして驚くことに、彼女の潔さは、決して興味があることに対してだけでなく、病気や恋愛の痛手を負ったときなど辛いことに対しても、何ら変わらないのである。これは、幼少の頃、父の命令はどんなことでも理屈無しに服従した名残だと彼女は言う。辛いと思うことの中に体ごと飛び込んでいけば、体がじきに慣れてきて、それほど辛いとは思わなくなると彼女は説く。何という勇気、何という精神力の強さだろう。案ずるより産むが易し、とりあえず一歩踏み出してみよという彼女の熱いメッセージが、私の心を奮い立たせる。

こんな型破りなことを次々と楽しむ彼女の真の美しさは、生涯女であり続けたことだと私は思う。何をするにもどうでもいいというのは好きではないと言い切って、彼女は年を重ねても、着物を着て化粧をしてお洒落をし続けたのである。それが長生きの秘訣でもあると聞いて、私は思わずはっとした。なぜなら、縁側で白髪交じりの長い髪の毛を櫛で梳かして、少女のように結い上げていた母方のおばあちゃん、いつも食べきれないほのご馳走でもてなし、若い人と話すと元気になるよと私が遊びに行く度に言っていた父方のおばあちゃんを思い出したからだ。私も二人のおばあちゃん、そして宇野千代さんのように、いくつになっても凛として美しい女性であ

り続けたいと思っている。

そして面白いことに、この才色兼備な女流作家の周りには、彼女に似通った逞しくて個性的な女性達で生涯溢れていたのだ。類は友を呼ぶという諺があるが、正にその通りである。その中で、私は特に作家の宮田文子に感銘を受けた。お金を持たずに海外に行って、高級なハンドバックの上に豪華なダイヤの指輪を嵌めた手を重ねて見せてホテルに泊まったという逸話は、まるで有名な映画のワンシーンのようで、想像するだけでわくわくしてくる。

男性だけでなく芯の強い多くの女性をも惹きつけた宇野千代は、幸せをぱっぱと撒く花咲婆さんのように、彼女の周りに多くの幸せを伝染させたことだろう。そしてもちろん、幸福の伝播は一読者である私にも伝わり、素敵に幸せの花を私の心にぱっぱと咲かせてくれたのだ。

## 生きて行く私

<http://p.booklog.jp/book/46590>

著者 : fumiacy

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/fumiacy/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46590>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46590>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.